

## 生前整理で家の片付け、費用の目安は 業者選びの注意点

2024/2/10 4:00 | 日本経済新聞 電子版



使わなくなった家具などの片付けは先延ばしになりやすい

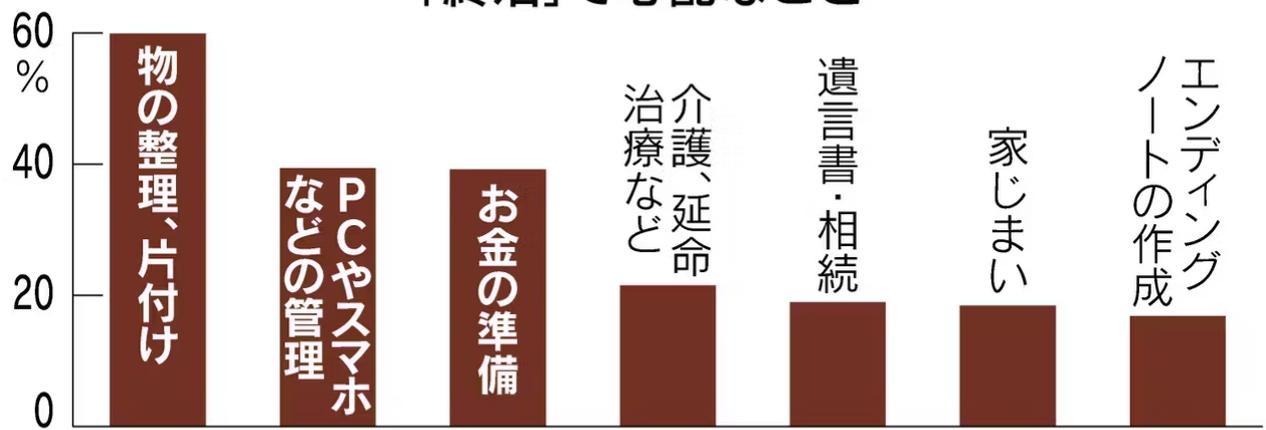
60代のパート勤務女性Aさんは2023年秋、70代の夫と二人で暮らす家の片付けに着手した。築約40年の一戸建てで、間取りは5LDK。台所や居間、夫婦の寝室以外の4部屋は亡くなった義母や独立した子ども3人の洋服たんす、勉強机、本棚、書籍などがあふれ、ほとんど利用していなかったためだ。

家具類は業者に10万円強の費用で解体処分を依頼し、数百冊の本は居住する自治体の資源ゴミ回収の日に3カ月かけて夫婦で少しずつ出した。まだ庭の物置が手つかずで、使わなくなった来客用の漆器・陶器の食器、座布団、ガラスケース入りの日本人形数セットなどが残る。「片付けがこんなに大変だとは思わなかった」と話す。

### 「物の片付けが心配」6割

Aさんに限らず、長年住んだ家は物がたまりやすい。SBIいきいき少額短期保険（東京・港）が50歳以上の男女1019人に終活で心配なことを複数回答で聞いたところ、「物の整理、片付け」が59.9%と最も多かった。2位以下の「パソコン（PC）やスマートフォンなどの管理」（39.4%）、「お金の準備」（39.2%）を大きく上回る。

## 「終活」で心配なこと



(注) 複数回答。SBIいきいき少額短期保険「終活・葬儀」に関するアンケート調査(2023年度)を基に作成

「物をため込んだ家の片付けはなるべく早く始める方がいい」。こう話すのは実家の掃除、生前整理などに関するセミナーや相談を手掛ける実家片づけ整理協会代表理事の渡部亜矢氏。元気なうちに整えておくことで住みやすくなるだけでなく、万が一の際に家族が物を整理・処分する負担が少なく済む。

年齢とともに日常のゴミ出しであっても難しくなる人は少なくなく、家にたまった物の片付けも先延ばしになりやすい。ファイナンシャルプランナーで終活アドバイザーの山田静江氏は「帰省などをしたとき親の家が散らかってきたと感じたら、可能な範囲で子も片付けを手伝う方がいい」と助言する。親の体力的な負担を減らせるのに加え、家族で物の分別や処分ができれば費用を抑えられる。万が一の際に親の保険証や通帳などがどこにあるのかを把握することにもつながる。

### 生前整理サービスは様々

家の片付けは捨てる物と捨てない物を分別し、不用品やゴミを処分するのが一般的な流れとなる。家族だけであるのが難しいなら、生前整理や片付け関連サービスを手掛ける業者を利用するのが選択肢になる。業者によって対応する範囲や費用は様々だ。

例えば分別から引き取り処分まで対応する業者の場合をみてみよう。大量に物があふれ、生活動線を確認できないといった家を1日から数日で整理するケースでは「10万円以上かかるのが一般的」と山田氏は指摘する。内訳は作業にかかる人件費などだという。

実際に関東・東海・近畿で年間約6000件の生前・遺品整理を手掛けるリリース（兵庫県西宮市）の赤沢知宣社長も「生前整理は10万円台が多い」と話す。同社では1LDKで8万8000円から、2LDKで16万5000円からが目安。荷物の量などで費用はケース・バイ・ケースで、100万円を超える例もあるという。

## 生前整理サービスの例

物の分別から処分まで	
サービス名:「お片付けサービス」(運営会社:リリーフ) 不要品を1日～数日で整理・処分、リユースも対応	1回あたり料金例 <b>8.8万円</b> ※1 (作業員3人、1LDK)
整理・収納の助言・実施	
「すっきりと暮らすライフ整理サービス」(ダスキン) 暮らしの目的などを聞いたうえで助言・実施。 定期訪問でリバウンドも防ぐ	<b>7700円</b> ※2 (1回2時間・ 2週に1回から)
「整理収納サービス」(LIXIL) 整理収納の資格保有者が担当。基本は1回ごと。 2回目以降は希望に応じて同じ人が対応	<b>1万7600円</b> ※3 (担当者1人・ 3時間相当から)

(注) 交通費が別途必要な場合がある。※1 荷物の量などで異なり、廃棄物処理費が別途必要 ※2 東京都、神奈川県内のみ9900円 ※3 「お試しプラン」の価格

思い出があるなどして、どれを捨ててどれを残すかで迷う場合もあるだろう。[ダスキン](#)の「すっきりと暮らすライフ整理サービス」は、専任の担当者が今後の暮らし方や使う頻度などを聞いたうえで整理のコツを助言し、一緒に分別などの作業をする。

定期訪問をする形式で料金は1回・2時間、2週に1回から。「時間をかけて気持ちを整理しながら片付けたい人が多い」(メリーメイド事業部)。いったん片付けても一定期間過ぎると再び散らかるリバウンドを防ぎたいという人もおり、1年など長期の利用をする例が目立つという。

[LIXIL](#)の「整理収納サービス」は、同社が契約する整理収納の資格保有者が片付けの助言・実施をする。1回ごとの利用が基本で、オンラインショップで受け付ける。リピートする際は希望に応じて同じ担当者が対応する。こうしたサービスでゴミの処分は利用者が自分でするのが一般的だ。

### 複数業者を比較

業者を決める際は、複数の業者の見積もりを比べることが大切だ。書面でもらい、人件費や運搬費などの内訳、追加料金の規定が明確かなどをチェックする。

## 業者を選ぶときの注意点の例

- 複数の業者の見積もりを比較
- 人件費や運搬費などの内訳、追加料金の規定が明確か
- 住所・代表者名をホームページなどに明記しているか
- 一般廃棄物処理業の許可を得ているか

一般家庭の不用品回収や処分をする業者は自治体から一般廃棄物処理業の許可を得る必要がある。無許可の業者が不法投棄をした場合、「依頼した個人も法的責任を問われる可能性がある」（環境省環境再生・資源循環局）。許可業者かどうか事前に確認したい。

(川本和佳英)

### 【関連記事】

- ・ [家の片付け、終活で欠かせず 生前整理で相続に備え](#)
- ・ [家の終活、手放す前の整理が老親守る 転倒で4割が入院](#)
- ・ [終活、銀行口座や不動産を一覧表に](#)

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.